

かきもり

柿衛文庫の俳諧コレクションより、芭蕉を中心とした名品を一堂に。

柿衛文庫(兵庫県伊丹市)は、岡田家22代当主・岡田利兵衛^{りへえ}(1892～1982、号は柿衛)が蒐集した俳諧資料をもとに昭和57年(1982)に創設されました。文庫名は、江戸時代から岡田家の庭にあった見事な柿^{もも}を衛^{まも}るという意味が込められており、同家の当主たちは柿に由来する雅号を持ちました。柿衛翁は、家業である酒造業を継ぎながら、伊丹町長・市長を歴任。さらに郷土伊丹の俳人・上島鬼貫^{うえしまおにつら}を出発点に、松尾芭蕉をはじめとする俳文学研究に没頭し、多くの俳諧資料を蒐集しました。その充実した蒐集品は、日本三大俳諧コレクションの一つともいわれています。

本展では、柿衛文庫が所蔵する芭蕉の名品を一堂に公開し、芭蕉の俳諧風雅の精神である「不易流行」に迫ります。あわせて飯尾宗祇^{そうぎ}や松永貞徳^{ていとく}、西山宗因^{そういん}、鬼貫など連歌から俳諧に至る作品の数々を展覧します。



松尾芭蕉筆「旅路の画卷(三画一軸の内)」(部分) 江戸時代中期(17世紀)

■ 開催概要

展覧会名：令和3年度秋季展

柿衛文庫名品にみる 芭蕉 —不易と流行と—

会 期：2021年10月2日(土)～12月5日(日) ※前・後期で大幅な展示替をいたします。

〔前期〕10月2日(土)～10月31日(日) 〔後期〕11月3日(水・祝)～12月5日(日)

※ご来館にあたって事前予約は必要ありませんが、混雑時はお待ちいただく場合がございます。

※マスク着用の上、ご来館ください。当館の新型コロナウイルス感染拡大予防対策については、ホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、開館時間の変更または臨時休館となる場合がございます。

会 場：永青文庫

開館時間：10:00～16:30 (入館は16:00まで)

休 館 日：毎週月曜日、11月2日(火)は展示替のため休館

入 館 料：一般1000円、シニア(70歳以上) 800円、大学・高校生500円

※中学生以下、障害者手帳をご提示の方およびその介助者(1名)は無料。

主 催：柿衛文庫、永青文庫

協 力：江東区芭蕉記念館、ホテル椿山荘東京



展示構成

「まこと」を求めて

芭蕉は、『おくのほそ道』の旅において「不易流行」の理念に目覚め、俳諧のみならず芸術全般に通底する本質的な真理「風雅の実(まこと)」に到達しました。本章では、芭蕉やその弟子たち、伊丹で活躍した俳人・上島鬼貫などの作品を通して、彼らが追い求めた、時代を超えても変わらぬ「まこと」に迫ります。



松尾芭蕉筆「旅路の画卷(三画一軸の内)」(部分)
江戸時代中期(17世紀)



上島鬼貫賛 大岡春卜画「小町図」
享保20年(1735)
【前期展示】



近松門左衛門 狂歌画賛「高砂人形遣い図」
江戸時代前～中期(17～18世紀)
【後期展示】



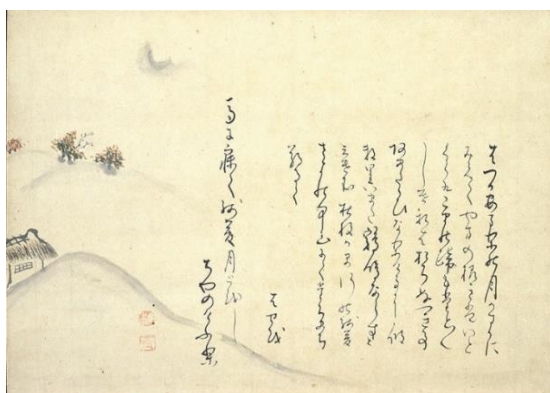
松尾芭蕉筆「はなの雲」句扇面
貞享4年(1687)【前期展示】

「新しみ」を求めて

芭蕉は、それまで俗文学と位置付けられていた俳諧を芸術の次元まで高め、時代とともに変化流行する「新しみ」を求めながら、生涯にわたり俳諧を深化させ続けました。こうした芭蕉の俳諧の変遷を筆蹟という新しい角度から捉えたのが、岡田柿衛翁です。ここでは、柿衛翁の研究に基づき、芭蕉の青年期から晩年期に至るまでの筆蹟の変化とともに、作品にみる「新しみ」を紹介します。



伊丹市指定文化財
松尾芭蕉筆「ふる池や」句短冊
貞享3年(1686)



松尾芭蕉「馬に寝て」句文自画賛 懐紙
貞享元年(1684)
【後期展示】

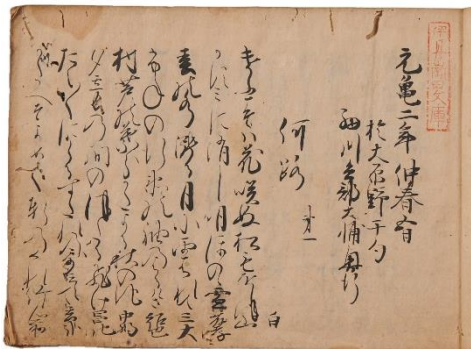
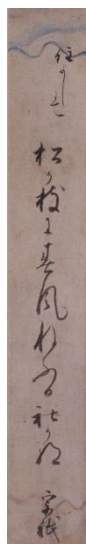
不易流行とは…

純粋な詩情を求めた芭蕉の俳諧理念。
不易とは時代を超えて変わらぬもの、
流行とは時代とともに変化するものを
いい、根本は一つであるとしています。



連歌から俳諧へ

連歌は、二人の唱和で一首とする短連歌に始まり、やがて二人以上で交互に長く続ける長連歌に発達しました。貴族や武将たちに好まれ、室町時代、和歌や古典にも精通した連歌師・飯尾宗祇が大成させます。江戸時代に入ると、連歌の雅に対し、俗を特性とする俳諧が文芸として確立。なかでも、言葉遊びの要素が強い松永貞徳の俳諧が庶民に受け入れられ、全国に広がりました。その後、西山宗因を中心とする俳諧が、より大胆奔放な表現方法によって台頭します。芭蕉は、はじめ貞徳門の俳諧を学びますが、江戸に出て宋因の新風に心酔。俳諧宗匠として立ったのち深川に隠棲し、幾度かの旅を通して「不易流行」の芸術観を説き、俳諧を芸術の域まで高めました。



細川藤孝(幽斎)等著『大原野千句』(部分)
安土桃山時代(16世紀)

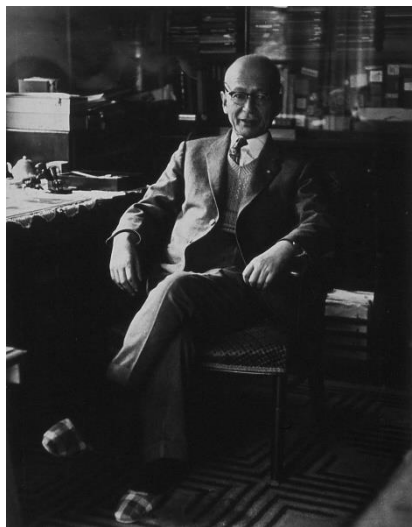


西山宗因賛 井原西鶴画「花見西行偃息図」懐紙
江戸時代前期(17世紀)
【前期展示】

飯尾宗祇筆「松が枝に」句短冊
室町時代前～後期(15～16世紀)
【後期展示】

柿衛翁の生涯と研究

岡田利兵衛(号・柿衛)は明治25年(1892)伊丹に生まれ、京都帝国大学を卒業後、江戸時代から続く酒造家を継ぐ傍ら伊丹町長・市長を務め、聖心女子大学などで教鞭をとるとともに俳文学の研究に没頭しました。その出発点は先祖と交流のあった俳人・上島鬼貫であり、最も重要な研究テーマは芭蕉でした。なかでも自ら芭蕉の真蹟を収集し著した『芭蕉の筆蹟』は文部大臣賞を受賞し、芭蕉筆蹟学の礎を築きました。柿衛翁は昭和57年(1982)に伊丹で没しましたが、収集した俳諧資料は同年に設立された柿衛文庫に受け継がれています。



岡田柿衛翁 書齋にて



高橋草坪筆「台柿図」
文政12年(1829)
【前期展示】

柿衛文庫



柿衛文庫の特色は、筆蹟類にあります。これは俳文学者であった柿衛翁が筆蹟類を研究資料として重要視したからです。収蔵品は、軸物や短冊などの真蹟類約7,500点、江戸時代の俳書を中心とする書籍約3,500点を数え、中世の連歌から芭蕉を代表とする近世俳諧の歴史を貴重な直筆資料で限なくたどることができます。現在、伊丹市の文化ゾーン一帯の大規模改修工事のため、長期休館中ですが、令和4年4月にリニューアルオープンの予定です。

見どころ

◆柿衛文庫所蔵の芭蕉作品を全点展示

芭蕉最晩年の作である「旅路の画卷」を特別に全場面公開するほか、あの「ふる池や」句の短冊など、柿衛文庫が所蔵する芭蕉作品を一挙に紹介します。

◆貴重な『おくのほそ道』の写本や芭蕉一門の作品もあわせて紹介

『おくのほそ道』は、芭蕉の依頼を受け、元禄7年(1694)能書家の柏木素龍により清書されました。柿衛文庫が所蔵する写本は、素龍が清書する際に手元に置いていた一冊であり、資料的価値が高いとされています。

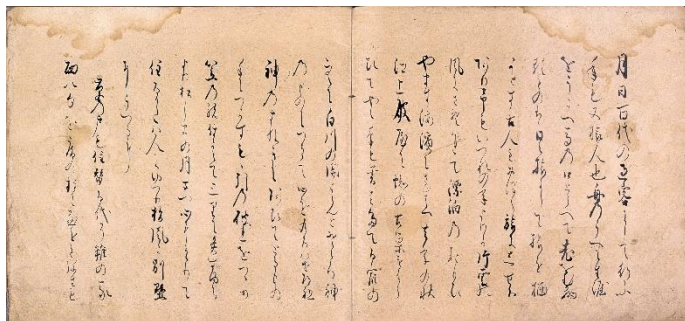
本展では、この貴重な写本や、宝井其角、森川許六といった芭蕉の弟子の作品もあわせて展示します。

◆日本三大俳諧コレクションの一つともいわれる柿衛文庫の所蔵品から、選りすぐりの名品が一堂に会する貴重な機会

柿衛文庫の所蔵品は、東京大学附属図書館の「洒竹・竹冷・知十文庫」、天理大学附属天理図書館の「綿屋文庫」とともに、日本三大俳諧コレクションの一つともいわれています。

今回は、芭蕉関連の作品とともに、飯尾宗祇、井原西鶴、上島鬼貫など、連歌から俳諧に至る選りすぐりの名品が勢揃い！

柿衛文庫が長期休館中のため実現する本展は、東京で柿衛コレクションをまとめて観ることができる、貴重な機会となります。



松尾芭蕉著 柏木素龍筆 柿衛本『おくのほそ道』(部分)
元禄7年(1694)



森川許六筆「百華賦」(部分)
宝永7年(1710)



伊丹市指定文化財
井原西鶴自画賛「十二ヵ月」より八月
貞享元年～元禄6年(1684～1693)【後期展示】

※掲載作品はすべて柿衛文庫蔵
※表示がない作品は通期展示

関連企画

◇記念講演会 鼎談「不易流行」

日時:2021年10月14日(木)13:30～15:30

登壇者:川上宗雪宗匠(江戸千家家元)

金田一秀穂氏(言語学者)

坪内稔典氏(柿衛文庫理事長)

会場:和敬塾 学生ホール大講堂

◇関連講座 対談「柿衛文庫の名品について」

日時:2021年11月7日(日)13:30～15:00

登壇者:尾崎千佳氏(山口大学准教授)、辻村尚子氏(大手前大学准教授)

会場:早稲田大学国際会議場 第2会議室

◇「芭蕉」展×ホテル椿山荘東京 コラボレーション企画

日本料理「みゆき」・石焼料理「木春堂」では、芭蕉をテーマにしたランチと展覧会チケットがついた特別プランをご用意しております。

※詳細が決まり次第、永青文庫公式サイト等でお知らせいたします。

◇10月26日(火)柿の日スペシャル企画

10月26日の「柿の日」にちなみ、柿をモチーフにしたものを持参または身に着けてご来館された方に、記念品をプレゼントいたします。

※飲食物の持ち込みはご遠慮ください。

【お問い合わせ】

公益財団法人 永青文庫

〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1

TEL: 03-3941-0850 FAX: 03-3943-0454

令和3年度秋季展「柿衛文庫名品にみる 芭蕉—不易と流行と—」広報画像申請書

2021年10月2日(土)~12月5日(日)

【前期】10月2日(土)~10月31日(日) 【後期】11月3日(水・祝)~12月5日(日)

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

ご所属:

TEL:

FAX:

ご住所:

E-mail:

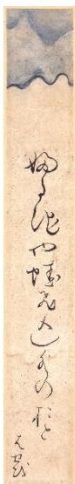
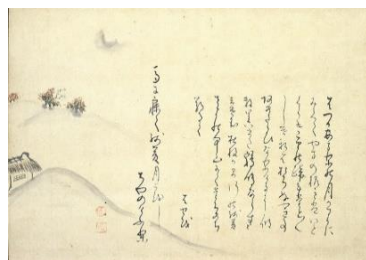
掲載予定日: 年 月 日

掲載概要:(コーナー名、画像の掲載サイズ など)

□読者プレゼント用チケット(5組10名様)ご希望の場合はチェックを付けてください。

※11月5日までにご紹介頂ける場合に限りさせていただきます。※チケットはゲラの確認後に送付いたします。

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。

1. 松尾芭蕉筆「旅路の画卷(三画一軸の内)」(部分)
江戸時代中期(17世紀)6. 近松門左衛門 狂歌画賛
「高砂人形遣い図」
江戸時代前~中期(17~18世紀)
【後期展示】7. 上島鬼貫賛 大岡春卜画
「小町図」
享保20年(1735)
【前期展示】8. 高橋草坪筆
「台柿図」
文政12年(1829)
【前期展示】3. 松尾芭蕉筆「はなの雲」句扇面
貞享4年(1687)
【前期展示】2. 伊丹市指定文化財
松尾芭蕉筆「ふる池や」句短冊
貞享3年(1686)4. 松尾芭蕉「馬に寝て」句文自画賛 懐紙
貞享元年(1684)
【後期展示】5. 森川許六筆「百華賦」(部分)
宝永7年(1710)※すべて柿衛文庫蔵
※表示がない作品は通期展示

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※画像の使用は、本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。貸与した画像は、使用後速やかに消去願います。

※展覧会名、会期、会場、作品名称、展示期間、所蔵者(柿衛文庫蔵)を必ずご掲載ください。

※掲載誌は2部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみに使用いたします。

許可なく第三者に個人情報を開示することはございません。